

検討材料 ～新スタジアムの検討において踏まえたい視点～

視点1 「スタジアムの多角的経営」

ビジネスの機会として建設・運営する

サッカー以外の来場・消費を高め、恒常的な収入を確保

視点2 「東部広域での効果」

1 東部地域のサッカー振興

2 経済効果

【例】

- ①ホームゲーム来場者のスタジアム周辺での消費
(飲食・宿泊・土産等物販)
- ②ホームゲーム来場者の観光地消費
(富士山周辺や伊豆温泉エリアへ「ついで観光」)
- ③ホームゲーム以外の来場者のスタジアム消費
(ショッピング、イベント等)
- ④ビジネス利用(貸し会議室、交流拠点利用)

3 東部住民の「賑わいの場・憩いの場」

視点3 「地域での共有化」

地域住民に課題を共有してもらうことで、将来の建設・運営に積極的に参画してもらえるよう素地を作る

スタジアムへの期待

一級の「サッカー場」としてはもちろん、東部地域の賑わいの中心となる

できるだけ自立して運営していく

多様な主体・東部全体の参画

J2・J1では来場者1万人を超えることも

大きな圏域を形成し、みんなで支え・享受する

スタジアムは、まちの共有財産…